

< 予稿原稿形式 >

パラジウム(0)錯体を用いたホスフィンカルコゲニドのカルコゲン原子交換反応

タイトル：明朝系、12ポイント

(富山大工) 化学会太郎、近畿花子、富山一郎

横 30 mm × 縦 20 mm
以上の空白

所属・氏名以下：明朝系、10.5ポイント

< 序 > ホスフィンカルコゲニドは、触媒反応等に広く用いられているホスフィンの再生という観点から極めて有用である。しかしながら、ホスフィンオキシドやホスフィンスルフィドが有するリン原子とカルコゲン原子との二重結合の解裂は温和な条件では難しく、……………

< 実験 > ホスフィンオキシドの酸素原子と硫黄原子との置換反応として、 $[Pd(0)(PPh_3)_4]$ をDMF中で酸化することによりホスフィンオキシド ($O=PPh_3$) を生成し、……………

用紙：A4一枚、余白：上下左右全て25mm

本文：基本的には明朝系、10.5ポイント

図・表：適宜配置

横線の下にタイトル、研究発表者氏名、所属、住所、連絡先を記入：Times系、10.5ポイント

Exchange reaction of chalcogen atoms in phosphine chalcogenides by using palladium(0) complexes

Taro Kagakukai, Hanako Kinki, Ichiro Toyama

Faculty of Engineering, University of Toyama, 3190 Gofuku, Toyama 930-8555, Japan

Tel:……, Fax:……, e-mail: :……